

温故新集

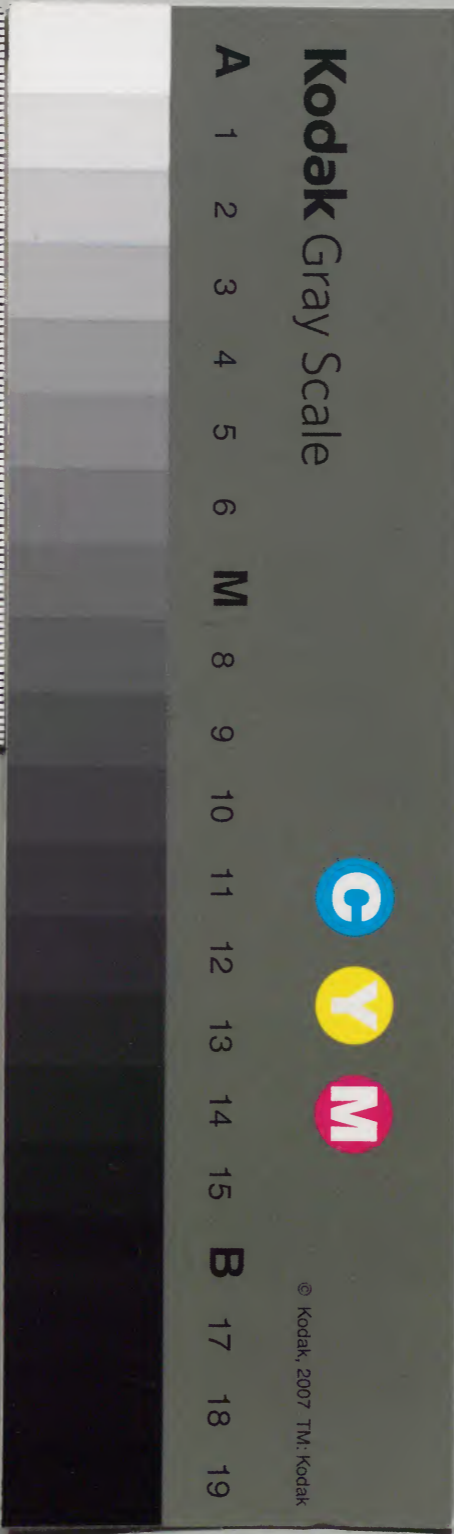
和書門			
二七五	四	五	號
八	九	函	
五	六	架	冊

344

庫文閣内			
一五三	二七五		和
二	五	四	書
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 27545
冊數	5 (1)
函號	153 344

153-344



國



秀侯の文書



用印
本國
圖書

用大分県... 三月七日... 九月...

三月... 九月... 外...

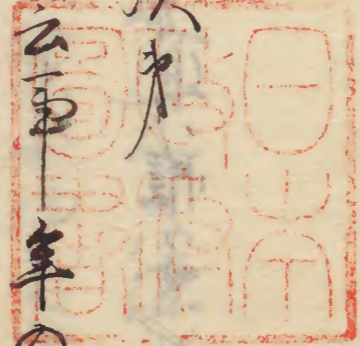
八月...

人

一三



萬葉の次第



正月朔日と云ふこと云事年の初月の初日の

初日を三つと云ふこと云事

月又ケ日と云事一月二日三日七日十日又出家

大日中と云事

大節佐と云事正月七日是節佐の初し三月

二日又月又日七月七日九月九日也八朔外也

春の^素禊祓の事柳色に深秋家の飯と竹柳と

大形小形と云事

- 一 夏の上下の事 地と水色に深紅と大紋もあがり
- 一 秋の上下の事 紫のいり本なり
- 一 冬の上下の事 紫のいり本なり
- 一 菊三つと竹葉厚金と表也（しやう）九つ九疋と表なり
- 一 紐の日月のいり本なり
- 一 卯月朔日と更衣と云是より六月四日までは柳を
袷試中しゆる、新時の袷斗右きぬ、白帷子と重
着はる

一 六月又日より八月毎日迄、帷子と本堂はるなり

- 一 九月朔日より八日迄、袷也、月九日、深小袖を中しるなり
- 一 十月亥のち、紫は、紫小袖と中しるなり、竹と
六の飯殿中しるの紀式なり
- 一 葵者手実候の夏葵、概の方、格のいり、花小実十
何と中し、乃心得、乃安なり
- 一 夏使の事、葵者、庭よりあし、録乃同（せやう）小福（しやう）なり
時同し、あし、くにより、極め、して又、録よりたり、録の
端より、袷試、又一人を、請（しやう）下、に、庄浦の間、も、て、乃、得
た、り、叔、友、使、意、趣、を、中、下、の、人、上、の、人、よ、同、を、て

巾着紐と云ふ人のせれりやと云ふ蓋有^くは柄の
人指^{あし}柄^{あし}紐と云ふ下^{あし}り^{あし}又^{あし}條有^くは二^{あし}條^{あし}中^{あし}二^{あし}テ
條^{あし}下^{あし}府^{あし}の人^{あし}指^{あし}中^{あし}り^{あし}

- 一 半人小座敷に古座敷と云ふ口と被縁小座敷
この也但縁小人が多し時縁おて被戸の隙も並下
一 公家元又其も人杯の袷^{あし}巾入^{あし}は加^{あし}時^{あし}は^{あし}比^{あし}内^{あし}求
お座敷^{あし}巾^{あし}縁^{あし}近^{あし}巾^{あし}より^{あし}乃^{あし}高^{あし}縁^{あし}の^{あし}き^{あし}は^{あし}系^{あし}扱^{あし}座^{あし}敷^{あし}
一 巾入の時縁までより巾^{あし}縁^{あし}一^{あし}は^{あし}右^{あし}の^{あし}座^{あし}敷^{あし}まで
巾^{あし}縁^{あし}り^{あし}入^{あし}縁^{あし}一^{あし}

- 一 御前より^{シヨウ}祓^{シヨウ}作^{シヨウ}仕^{シヨウ}候^{シヨウ}の事^{シヨウ} 主人の方^{シヨウ}縁^{シヨウ}と^{シヨウ}実^{シヨウ}例^{シヨウ}
立^{シヨウ}換^{シヨウ}に^{シヨウ}踏^{シヨウ}へ^{シヨウ}一^{シヨウ}其^{シヨウ}日^{シヨウ}の^{シヨウ}出^{シヨウ}仕^{シヨウ}斗^{シヨウ}の時^{シヨウ}の^{シヨウ}袖^{シヨウ}の^{シヨウ}御^{シヨウ}目^{シヨウ}掛^{シヨウ}る^{シヨウ}
類^{シヨウ}と^{シヨウ}御^{シヨウ}前^{シヨウ}と^{シヨウ}比^{シヨウ}立^{シヨウ}也^{シヨウ}

- 一 巻衣^{シヨウ}廣^{シヨウ}蓋^{シヨウ}に^{シヨウ}着^{シヨウ}出^{シヨウ}事^{シヨウ} 拵^{シヨウ}紙^{シヨウ}の^{シヨウ}柄^{シヨウ}柄^{シヨウ}と^{シヨウ}先^{シヨウ}り^{シヨウ}
一 巻衣^{シヨウ}と^{シヨウ}前^{シヨウ}より^{シヨウ}垂^{シヨウ}柄^{シヨウ}右^{シヨウ}の方^{シヨウ}に^{シヨウ}垂^{シヨウ}柄^{シヨウ}子^{シヨウ}袷^{シヨウ}被^{シヨウ}花^{シヨウ}
一 巻衣^{シヨウ}を^{シヨウ}後^{シヨウ}に^{シヨウ}指^{シヨウ}右^{シヨウ}方^{シヨウ}と^{シヨウ}柄^{シヨウ}子^{シヨウ}と^{シヨウ}被^{シヨウ}指^{シヨウ}右^{シヨウ}方^{シヨウ}一^{シヨウ}又^{シヨウ}
一 其^{シヨウ}候^{シヨウ}は^{シヨウ}指^{シヨウ}取^{シヨウ}縁^{シヨウ}一^{シヨウ}何^{シヨウ}者^{シヨウ}不^{シヨウ}仕^{シヨウ}合^{シヨウ}行^{シヨウ}要^{シヨウ}なり^{シヨウ}
一 同^{シヨウ}金^{シヨウ}襦^{シヨウ}袢^{シヨウ}子^{シヨウ}杯^{シヨウ}の^{シヨウ}端^{シヨウ}と^{シヨウ}二^{シヨウ}卷^{シヨウ}袷^{シヨウ}卷^{シヨウ}返^{シヨウ}一^{シヨウ}扱^{シヨウ}止^{シヨウ}と^{シヨウ}扱^{シヨウ}止^{シヨウ}
一 包^{シヨウ}縁^{シヨウ}一^{シヨウ}

一 同巻^赤喜襖乃事一包たるを三つに折さしと見えな

のふくく色渡之し清丸右小並一礼有(一)

一 同様集杯み下る事一廣蓋を小裁之事し有之

是自然の像也

一 様集に水^赤喜襖中事と習の入りと後主人のたりの

水方(指^赤喜襖乃縫袂に手を拭川と右手に裁た

字^赤喜襖乃得くを正に様集に府小打を了る

水礼^赤色一

一 他家(府子行希糸しん事一府打紙をた子に持り

一 礼して扱渡付府を右(五並)一渡之(一)

一 給^赤備乃扱渡事一廣蓋小入中中て渡之(一)給^赤並扱

渡之者の方(色同試か)一並(一)清丸者扱く為

三幅、付ハ主后を前ハ中事と中ハ客后と先並下

一 廣蓋に赤日府系糸扱也其付、赤日、中府ハ先度

一 糸ハ前に並色

一 同府度糸と扱付と府さじ、度糸と府も横に

一 要し度糸の袂ぢめを相付右(一)

一 同^赤襖^赤の同扱也其後、左同ハ右小並扱か府敷^赤乃

一 程と足合右小並先服と渡とを交すて清丸右小
柄扱時をさ乃本とた小持右手に振渡とたよと
将とさの本と行手して清丸礼し此之に廣蓋に
渡清丸事と有之

一 同喜禰禱積を事禱と二ツに折腰と相手のたへ
之とに喜禰と二ツに折腰成お手の右方へ出此
處し又尚府小解小振出付との此堂安と右小持たる
抱をよくし

一 卷教^{ルニエ}礼式披露の事 卷教とた小礼式と右小持先

一 卷教と御同小拭を後礼式と御同小けむ半巻枝の
先と礼式小折拭を此之處し

一 燭臺の事 持出黄紙の力(奇是二ツ世人の方向
並し)但備花乃臺の時をそくせん掛と秋方(ち
並し)燈籠の火ととりし此並置し

一 同燭燭の先並枝の事 庭敷に二挺も三挺と有之
付と九筋しれし(但を提の時を候はる處し

一 火神の事 是二ツ貴人の方向並し

一 香盤に香燭並枝の更香炉、中香合、た香着

右より一三ツ全偏の心は前より上座に並一
又焼香の時何れ一所に並一主人焼香は並と
作有たをわてすもの

一 香穂の火の事 固炭とし五徳し

一 灰押込の夏夏形小押包し何れ押切も半湯
有之

一 同薫物ダキの時一灰し押根と補たく包し薫物の包
香穂に志を包したるは

一 薫物と焼も好ジ沈と焼包し

一 香炉と人の方中一又押板香盆杯に振並何れ

是二ツ正面向並一一人後時一是二ツ後前向何れ

一 一上中下左小渡板の氣口傳

一 同清後の事左に右右手右と香品左一後
一 一後板右と渡左も

一 月香左並右事左清右か左何右も左平右交左す右一左何右か
さし左交右好左し右清左着右人左か右一左若右友左もの

何左か右を左何右剛左一右若左若右を左手右と左一右一左何右か
若左人右より左清右時左は右右左手右と左一右重左て右一左一右何左も

依(一)たさなき人(一)の(一)の(一)とく(一)聞(一)一又か人(一)後
た(一)の(一)孫(一)と(一)三(一)の(一)伊(一)水(一)也(一)教(一)て(一)聞(一)一(一)い(一)ま(一)を(一)人(一)を
从(一)裁(一)か(一)し(一)す(一)事(一)何(一)し(一)き(一)し

一 座浦小繪掛(一)事(一)三(一)隔(一)の(一)村(一)の(一)王(一)后(一)と(一)掛(一)客(一)后(一)と
掛(一)板(一)中(一)と(一)を(一)り(一)同(一)本(一)村(一)を(一)客(一)后(一)と(一)卷(一)次(一)小(一)中(一)と(一)卷
備(一)主(一)后(一)小(一)て(一)卷(一)的(一)色(一)一

一 同見(一)地(一)の(一)夏(一)將(一)と(一)重(一)ら(一)と(一)一(一)間(一)福(一)重(一)女(一)子(一)と(一)実(一)光
中(一)と(一)見(一)次(一)小(一)た(一)と(一)見(一)板(一)右(一)と(一)見(一)一(一)一(一)を(一)く(一)と(一)は(一)候
五(一)人(一)と(一)居(一)た(一)て(一)見(一)一(一)一(一)何(一)も(一)不(一)行(一)要(一)なり

一 華(一)法(一)五(一)渡(一)の(一)事(一)木(一)の(一)村(一)花(一)と(一)一(一)車(一)の(一)村(一)花(一)と(一)人
か(一)と(一)一(一)但(一)草(一)花(一)成(一)を(一)と(一)三(一)の(一)つ(一)も(一)さ(一)候(一)人(一)一(一)し(一)も
渡(一)と(一)一(一)一(一)同(一)に(一)掛(一)付(一)と(一)大(一)形(一)同(一)形(一)道(一)行(一)村(一)も(一)其(一)爲
か(一)ら(一)ま

一 座浦(一)の(一)花(一)見(一)地(一)の(一)夏(一)將(一)子(一)後(一)小(一)水(一)と(一)静(一)小(一)水(一)り
間(一)と(一)一(一)間(一)隔(一)て(一)女(一)子(一)と(一)実(一)見(一)と(一)一(一)一(一)を(一)く(一)あ(一)て
見(一)一(一)と(一)有(一)候(一)候(一)と(一)隔(一)い(一)ふ(一)と(一)静(一)小(一)水(一)一(一)一(一)三(一)孫
有(一)候(一)中(一)と(一)見(一)次(一)小(一)客(一)后(一)と(一)見(一)地(一)王(一)后(一)と(一)見(一)地
色(一)一(一)但(一)掛(一)物(一)同(一)あり

一 主人の存子と系する事右少て要此の如く
手と流系する一自他家存と系する時八要と
取九は如く指し地勢と持敬て系する一

一 存子小物と若出車一右小要とたして川まを
女十と掛かると一但し斗請九枝流口傳

一 主親の赤とて存をいふ是三間程とて一也一但
主人小指の老ハむろり乃友之又鼻とてむも心
任は危し能く心得る一

一 此小袖若くは是先九乃袖と通して七中右の袖と

此通は歳時節の中程とて五長指と魚一

一 五と為来て候る事一此小袖乃中に持来すは柄
口傳

一 此手水掛り事一此子拭と麻小振柄系して一掛
内ハ郷^{シカ}と油取かく女と掛切危し次軍陣少てハ
いし掛切ハ口傳

一 御徳柄持更た存五紙と持右ハ此牌物と持一
主人より上たり人此存時ハ刀と横小柄魚一

一 此別刀と横並事一有月友ハ馬杯ハ系時ハ柄

一 巻紙の巻端より刀の後端へ筒状に入り見れば
有之也

一 天目建魚乃事巻小指を十事巻より左を
りし各事故実と何れもむるに似るは去茶ぬ
魚の巻に指されたりつぎ故首の指末と今これなりし各

一 多事対ハ二口程飲巻より左にあり天目たり是
類なり何れも一巻に定巻し決着故実と用申

一 介別有魚し

一 貴院乃事方(兼院)と茶巻七巻より右に
糸と下(俣付)と依(一)

一 視料紙糸と事上下に見合料紙と筆巻并

一 下に持流籠乃通に指乃付指し下に並付ハ主人

一 の女右の方(寄蓋)と何れの方に依(一)

一 俣門小袋末有之、作て系視と川が水と入

一 墨と純より筆と筆巻小指を扱(一)主人乃

一 血氣とを窺即前と右を扱(一)小有(一)扱(一)何

一 何れと筆と水と(一)の付(一)

一 同又右の(一)江中(一)付(一)蓋と何れと筆扱

一 是(一)何れと糸と口傳

- 一 同類清の時の蓋のよ小料紙本玉を垂掛糸を付
- 一 一の帯にハ留ル
- 一 人形として托の中見の先口と二枚紐見中と二枚紐見紐具と一二枚見く人の中に玉龜
- 一 建物の座敷の事 秋前の五三入り障子を見ぬ
 ことわり着直勾有い女く其勾の心を知れとも面白
 かししり折を止る事 肝要し又秋勾何の座敷に
 卒交窺たして府の中程と持右も要の計り
 九初わら縁と立り心止し一糸勾小二勾付月信用

- 一 何のよも二性敷を不立ハり
- 一 懐奥の同裁の事 座敷の掛る、卒交九かろし
 折紙のしりき字流と秋方(ち)糸止し又府小
 盾ても糸止る也短尺杯と大瓶口かし
- 一 主人暮と極す時程止る貴覧の方ハ五の意を
 室(し)世夜(白)と(何)陰陽の心得る去去夫
 の由意にまゝしり口傳
- 一 主人の意かくた座敷と(勅)手度掛る給ゆり
 けりしを垂し事式ハ志しらの杖金着はり

一 物と並ぶる是なり一奉公人乃心御掛
 一 常法九渡事 汚桶と物出右小室に
 前より蓋と御門とを色紙と蓋と
 桐子も右の字と掛法
 一 同主人の系より時を籠桶より
 向う休と我方から系より
 主人は向九休と我方
 不と渡し合より対合方を外
 十日か

一 沉香出車 多し出付、盆に積出
 包三し出付
 一 黄金如夏是も五分の付、盆
 包してをき
 積盆
 一 主人の書状系より夏た中
 下草の方より系
 書の中と物主人の
 付ハ花の

一 祇侍より文と主人は枝見に入り車押巻て右乃
手不字以の方代持系とて一湯釜の子細を懐中
あふあ志りくの中枝高し扱お同小掛又本の心
巻込危し

一 主人所と出脱し火小入しと信有き前とて右代持
く之火小入危し

一 主人は指奇物り承是主人のた乃出係と守形一
大形おつたの袖を見てり危し平人の時おと見一

一 天八におを車り衣の袖を奇口を掛奇口の方と

指野火し

一 指清方の夏取の方と先(う)して渡危し指九也り

一 友手と指取(一)但人小七依(一)足の時何も指の

尚雨(手)と流危し

一 座江小卒家流しり夏を亦何て流言を二句三窺け方

より卒度料(お)をり座江依程に流二句とて圖(丸)なり

二句目とけ方より亦下家二句目亦け方り料約

也(一)像程小流(お)道也

一 同言座貴人乃息に居村の女子にむ王と持系とて

一 衣類也色留の人縁（ミツケ）の中子にむすどふひそくして
 箱よりぬきし杖は杖小柄と庄流の糸よそを並し
 テこぢろと杖右の方なりし流し（一）同又初り庄流
 乃杖小柄にてより庄流の糸よそを並し
 一 二ふしより為る杖小柄は後よりし
 一 同白染よの夏大柄は家紐小あつふべし是衣類
 忌うぬ也な玄人小も係し
 一 同葉門者の夏右の袖をむくくかき庄流の杖より
 玉に碎のさうと云々すべし

一 同茶の座の事右を庄流の手とぬたをまじ
 一 一
 一 風呂出候の事刀と後柄を返し役立とぬと下と
 ぬをやりぬ小袖乃とくを二室にまき並し（一）小腰物
 一 冬ぬの肩の字小柄何云（一）湯屋（糸ぬ者ハ外乃
 用心行要也
 一 同主人より先よぬぬを二九月（入ハ際ハの糸よそを風呂
 の天井より四方の板をやりて外ハ掃ハし
 一 扱ハたたりハ一主人ハ入ハるハ向ハ小ハ平ハ帯ハとぬぬに

危く次口傳

一 おくし村柏子に掛り次危くは賞祝(尾流)の像に
一 主人由之んに糸夏先子水とつゝい叔母を弟と並
日とぬき(糸)――

一 主人由寝下を車由枕は床小を菊枕面床小枕
一 定(一)に去主人の心小住(一)嫁の河小枕
一 由物と夏を依由枕小面と表(一)由枕ハ
上浦乃とに並危――

一 由湯(一)由像乃夏左小火試由先(一)表り(一)と

見ぬ主人と入しと進と斗ひ何公す人――

一 帯に主人由像乃夏門の由武(小)角少(一)先
走(一)右と見(一)一由危(一)一(一)の由小(一)之
少秋像(一)年云人の是流(一)夏(一)何と亂(一)の由
か――

一 主人由社系の時も神前として由幣戴せり夏神主も
由幣と流れた少(一)幣の本と持右と(一)と(一)由
進(一)の時た右の係と実少(一)側(一)其(一)系(一)と(一)由
叔母時と由幣の由と右小持た(一)と(一)と(一)――

唯すかを小車り(一)是(一)とておとん(一)なる所(一)の
不(一)中(一)前(一)より定(一)然(一)一

一 庄(一)と立(一)着(一)杯(一)と(一)川(一)本(一)庄(一) (一)海(一)時(一)秋(一)より(一)中(一)庄(一)小(一)の(一)
人(一)に(一)礼(一)を(一)下(一)但(一)小(一)と(一)依(一) (一)何(一)も(一)亂(一)を(一)行(一)要(一)なり

一 貴(一)人(一)主(一)人(一)の(一)出(一)米(一)と(一)て(一)礼(一)儀(一)と(一)す(一)り(一)夏(一)外(一)より(一)位(一)乃
出(一)米(一)を(一)小(一)禮(一)を(一)包(一)り(一)以(一)傳(一)

一 評(一)定(一)を(一)歌(一)の(一)庄(一)友(一)と(一)す(一)り(一)左(一)右(一)半(一) (一)礼(一)を(一) (一)何(一)も(一)時(一)置(一)
小(一)弟(一)又(一)事(一)に(一)も(一)も(一) (一)十(一)六(一)歳(一)大(一)悟(一)大(一)丈(一)と(一)云(一) (一)人(一)類(一)よ

一 庄(一)友(一)と(一)能(一)り(一)古(一)成(一)甲(一)包(一)り(一)お(一)り(一)法(一)大(一)名(一)の(一)下(一)と(一)後(一)從

一 小(一)禮(一)一(一)容(一)后(一)よ(一)は(一)為(一)良(一)願(一)右(一)京(一)非(一)主(一)后(一)よ(一)親(一)在(一)京

一 大(一)丈(一)も(一)外(一)大(一)小(一)名(一)を(一)公(一)の(一)面(一)に(一)置(一) (一)左(一)右(一)小(一)列(一)庄(一)と(一)米(一)
赤(一)松(一)と(一)總(一)入(一)道(一)米(一)俵(一)り(一)り(一)也(一) (一)制(一)式(一)の(一)家(一)立(一)赤(一)松(一)と

一 式(一)卷(一)より(一)人(一)か(一)久(一)浦(一)有(一)赤(一)松(一)と(一)り(一)け(一)け(一)小(一)風(一)信
見(一) (一)子(一)亡(一)父(一)庄(一)友(一)と(一)立(一)席(一)なり(一)も(一)に(一)赤(一)松(一)上(一)に(一)坐(一)す(一)ひ

一 尚(一)庄(一)の(一)物(一)置(一)志(一) (一)く(一)有(一) (一)時(一)庄(一)申(一)の(一)老(一)老(一)各(一)座(一)
立(一)見(一)合(一)衆(一)も(一)も(一)時(一)所(一)席(一)定(一)也(一)り(一)是(一) (一)時(一)め(一)も(一)也

一 尚(一)庄(一)の(一)め(一)い(一)よ(一)一(一)期(一)の(一)ち(一)替(一)と(一)赤(一)松(一)入(一)道(一)八(一)度(一)皆(一)也
大(一)棟(一)像(一)帝(一)の(一)亂(一)を(一)も(一) (一)為(一)其(一)記(一)室(一)と(一)の(一)し

- 一 何れも初物とを夏敷多うの悪女事ししとく
たしき貴殿也尚家在京の時とら方より茄子敷
十盛りしとせりゆし二ツをとりせしと内儀も
十かりとせしとたふしとふ審せし時初物とす多
し中してハ初物とを云ふかしてと二ツをとり
たし後ち初物を云ふ何れもかんせしかり
後ち後ちかきかき事一貞のみの方と持者後換
女横小如快し方か魚し
一 貞の頭と庄友のたかし一果^{カキ}出き今も隔並

- 一 魚下座下人出ら又前の友人か板と持頭小出り
貴人の正面に切ら方か貞の頭とたかし後し
一 一人持^{カキ}時を口赤とせり重しし時板と出せに不及
一 ね去時区小も依ししゆ貞の頭と方と子の手組下
一 志下果板と入時也貞のたの方と光かき入るし
一 多の時ハ何多也と仰けていととたの方か
一 たの方とけて重し
一 鷹のち板后出き事一鷹鶴馬白鳥杯のれは外
一 こと事小し出きし一は傳

- 一 庖丁人の客人の方より大刀威を引か物かし事
- 一 有る色二はより赤(此)と(此)指(向)我(在)立(一)
- 一 盆小香箱居進(一)の事先人(此)居(此)の以(方)紙
- 一 先(か)し物(出)古(茶)小(器)等(使)よ(九)也(一)居(此)人(此)と
- 一 貴人(向)世(寄)居(一)
- 一 同(全)欄(此)子(度)系(沉)香(此)下(居)を(上)の(時)と(以)か(し)
- 一 同(方)の(此)さ(刀)居(此)を(事)一^{ハフ}竿(の)方(と)と(小)て(む)ひ
- 一 の(方)と(其)人(柄)を(右)た(か)し(下)緒(此)引(の)と(座)
- 一 是(小)を(儀)素(と)候(小)物(を)出(り)也(女)貴(人)の(右)一(寄)

並(一)是(小)自(此)乃(儀)也(上)為(ハ)候(ハ)候(の)夏(帯)の(女)こ
 以(時)は(其)人(七)寸(半)の(刀)の(方)也(一)

- 一 板(の)物(此)事(一)是(小)居(一)又(他)也(此)を(時)と(以)か(し)
- 一 大(刀)乃(此)時(を)先(板)の(物)を(出)し(て)候(小)刀(と)出(り)
- 一 清(刀)候(先(板)の(物)と)清(刀)た(と)是(小)紐(右)刀(と)清(刀)礼
- 一 志(小)ゆ(此)也(候)先(板)の(物)と(右)同(小)掛(も)候(此)
- 一 是(小)重(紐)右(刀)と(帯)の(一)候(此)候(一)候(志)と(清)
- 一 此(礼)を(右)右(刀)と(下)て(此)候(一)候(此)人(一)候(板)の(物)
- 一 上(小)右(刀)と(並)列(候)也(一)有(之)小(袖)に(右)方(の)候(一)

一 杖落の付成りかたなり

一 具足虫杖の事あてと後巻ハ整ハ一後巻ハ三人トて

かき并て杖出治る人乃向小並たの者持女押並に

村向と見とをハ一治杖指方村向のらさんとな

我危し羽杖大羽杖出り心留し月あてハ一人にて持

危し但甲流付と後巻ハ向かじ何とたの役人なりし

一 月甲計の付の廣蓋ハ若て大羽具足の内は出さし

又付置小より手小持てとも出危し其時ハ尤小持

右あて末の儀と杖ハ一糸と口傳

一 具足小言物ト云々胸甲袖ト云也但のこ掃ハ流

ぬがり袖と並よ付て胴立ハ一掛甲と宗志のひ

の備よて胴立乃女子の是末ハ二巻後より前ハ

一 巻て緒とのまがハ掛後ハ一ハ一ハ九遠前ハ一ハ

二結にむつとふに結ハ一唐櫃ハ蓋とアツヌケて

若危ハ一夏布ハ補ぬよなり

一 虫杖の付成り中より小袖等付の蓋ハ何者目小

ては下と右支ハ同儀ハ一ハ一ハ次の人ハ着ハ海縁

小袋より手と実有くハ一ハ一ハ巻の同より廣蓋ナ

長出ると指先清方廣縁小長丈糸通し時
 樂座より出立縁として松裁し小袖の中へ手を入
 り記押厚の杖よりして是一月又小袖と五層小
 赤裁席の事有し何れ廣蓋となるは次
 扱廣蓋の汰のる扱行し一室の月返る扱行
 一 月能初しと作りし時取人の出縁の下に在る立
 樂座(向古縁初しと云く)中扱長りより後
 小出縁に卒交しと扱より是人の色めては実
 本座(向古)

一 舞臺にも目積夏万之の時格人しと扱中後
 一 じり先(身)の隅より十折小急く並し
 一 月柄出縁の又白之宛中と結た右柄出先と云
 一 並扱具とに右と望して十文字に並し扱扱
 一 洋巻先しと手と実出前の色りして手と実
 一 扱し様樂の扱の先取しと云く扱扱
 一 一丸の庖下の夏初丸の時刻て端の許ふと入
 一 出し着小てと云く糸と一と大ぬと云くむく
 一 刻扱大小扱し

一 日志向くしつた初丸帯のくくくむきと枝
 一 可小割又横小切糸と一し同さうりの時と割と糸
 一 切糸と一しむ去女人かとい割て糸と一し是故実
 一 同くまのむき枝の夏先と水と流むむく時右の
 一 孫と立頭の方よりむくし枝の六半也先切り
 一 てん見を暖切時秋方切糸と切拭て諸人前へ
 一 行卒度刀おとす川より中津迄切たかとも
 一 同く用とて又糸のくく割て糸と流なり是は
 一 中の水と力て糸と流むむなり

一 梨子むき枝の夏先の方よりむきと枝と流し
 一 日又女人貴人あまの時の糸のくくむき流掛小
 一 一して二に切流への付る方と切目と板おある枝
 一 一り力と入浴人ともむき時流と二に割糸と一
 一 一糸よりむき枝の糸と流むむきと力と立むき
 一 二にむき板小力と流むむきと軍陣よては横刀と
 一 一当りしん
 一 一帯乃杖の二つ小割しらの方よりむきと一に横
 一 一力と流むむ口傳

一 屏風立俵の夏墨繪しつゝいしきの時ハ先墨繪
 一 上に立次小つゝいしきと立座し
 一 部書戸の夏年常出入員数人作と依一俵
 一 虎豹の皮積俵の夏毛の方とよにかしく二ツに
 一 おてうとをおおの右ハ一紙一法俵でわらふとく
 一 五立一
 一 指前出俵の夏先着と指前出俵の夏先着と出さ
 一 書何と入時ハ口と主人のたハ一俵に並入し
 一 又書何と入時ハ口と主人のたハ一俵に並入し

何と書及虎豹の皮積俵の夏先着と出さ

小笠原大膳大夫

長持

同 右邊大夫

貞慶





Vertical handwritten text in seal script, located to the left of the red seal.

Faint vertical handwritten text in seal script, located to the right of the red seal.

Small vertical handwritten characters, possibly a signature or date.

印
白
書
局
藏
書
印

